

美術科

テーマ

生徒が主体的に表現や鑑賞を追究するための ICT の活用

1 本単元の学習のねらい

「 3 学年 表現 ココロのカタチ ～色と形でココロを表そう～」

- ・技法を組み合わせるなど、表現方法を工夫することができる。 (知識及び技能)
- ・心とは何かを考え、自分の心を色と形で表し、自画像に主題を見出すことができる。 (思考力、判断力、表現力等)
- ・自分の表現を追究し、主体的に取り組むことができる。 (学びに向かう力、人間性等)

2 研究への取り組み

- ・ I C T 機器の活用により、グループワークや発表活動に意欲的に取り組ませ、様々な角度から魅力に気づかせる。
- ・適切かつ効果的に ICT を用いることで、生徒が主体的かつ持続的に学習していくとともに、自身の学びを自己調整しながら学習を進めていくことを目指す。

3 主な学習活動

	主な学習活動と活用した ICT 機器・教材・コンテンツ等
抽象作品や人物画の鑑賞	・抽象的な表現を行った作家の映像を鑑賞する。 ・人物画の鑑賞をクイズ形式で行う。 (作品カードや電子黒板、映像資料)
心を表す“背景”の制作	・モダンテクニックを使って自分の内面を表現する。 ・インターネットを活用して画像やイラストを自分の作品にコラージュする。
心を表す“自画像”の制作	・“背景”に合わせ、自分の心を表せる構図や表情を考え、写真を撮影する。 ・電子黒板やインターネットで自画像の描き方を参考にしながら、自画像を制作する。

4 授業の実践より ～ICT 活用の効果と課題～

自画像をどうやって描くか考え道具を選べるようにした。鏡を使って自分の目を見つめる、印刷した写真を見て描く、タブレットの写真を拡大して見るなど、自分に必要な道具を使用していた。生徒は印刷した写真をよく使っていた。中心やポイントになるところに線を引いたり、画用紙の横に置きやすいためであろう。タブレットも同様の使い方ができなくもないが、紙の手軽さには敵わない。しかし、タブレットは写真を撮り直したり拡大してみたりすることができるので、やはり便利に活用できていた。





課題としては、生徒の端末から直接印刷ができないことである。生徒に共有フォルダに写真データを提出させ、教師がそれを職員用 PC を経由させて職員室のプリンターで印刷するという手段しかなく、非常に手間がかかった。欠席者や撮影し直した生徒の分の印刷を後日行うことも煩わしい手間だった。今後は、生徒用端末からプリントできるように整備されることを期待したい。

5 ICT を効果的に活用するポイントなど

- 鉛筆デッサンを指導する際、電子黒板のホワイトボード機能は、白地に様々な色で描く（書く）ことができるため、黒板に白チョークで描くことに比べてわかりやすく教えることができた。
- 電子黒板は指導した内容を保存しておけるため、継続した指導を行いやすかった。
- ICT 機器を活用しつつ、デジタルでの表現、アナログな手作業での表現、それぞれの良さを見極め、適切に指導計画を立てていくことが大切であろう。

